



書評

[評者]

高野利実

がん研有明病院

乳腺内科部長

がん薬物療法のひきだし

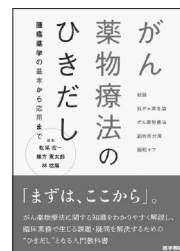
腫瘍薬学の基本から応用まで

松尾宏一，緒方 憲太郎，林 稔展 編

●B5 頁474 2020年4月

定価：本体4,500円＋税

[ISBN978-4-260-04180-5] 医学書院刊



病院薬剤師が主人公のドラマ「アンサン
グ・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋」（フ
ジテレビ系，2020年）が話題になっている。
患者さんに寄り添い，薬剤師として悩みな
がら，知識と経験に基づいて行動していく
主人公。これまで，いろいろな病院で，優秀
で熱心で魅力的な薬剤師に支えられてきた
私としては，〇〇さんや△△さんなどの姿
を重ねながら，このドラマを楽しんでいる。
現実離れた描写や，高圧的すぎる医師の
姿には批判もあるようだが，薬剤師の想い
や仕事ぶりはうまく伝わっているように思
う。チーム医療に欠かせない存在としての
薬剤師がこのようにクローズアップされる
というのは，チーム医療に救われている腫
瘍内科医としても，とても喜ばしいことで
ある。医師の指示のもと，薬剤の管理だけ
を行うのではなく，患者さんのために，
チーム医療の中心となって活躍することが，
これからの薬剤師に求められる役割であり，
それこそが，このドラマの重要なメッセ
ージであろう。

がん薬物療法の分野では，進歩のスピー
ドが加速しており，薬剤師が身につけてお
くべき知識も膨大なものになっている。今
の時代は，知識をすべて身につけていると
いうよりは，知識のひきだし（エビデンスを
検索する能力）こそが求められているともい
える。いずれにしても，これらの知識を背
景に，患者さんや他の医療従事者と対話し，
より適切ながん薬物療法をめざしていく必

要がある。そんなときに手元にあると役立
つのが、『がん薬物療法のひきだし—腫瘍薬
学の基本から応用まで』である。

本書は，がん薬物療法に最前線で取り組
む薬剤師が創り上げた教科書である。網羅
的で重層的な，それでいて，わかりやすく，
かゆいところに手が届くような内容になっ
ている。「ひきだし」というタイトルも絶妙
で，全体の構成から，各章（各ひきだし）の
構成まで，いろいろな工夫がなされている。
「はじめのひきだし」と「スキルアップのひ
きだし」も，知識の整理に役立つことだろ
う。

ひきだしは5段あり，「1段目 総論」「2段
目 抗がん薬各論」「3段目 がん薬物療法」
「4段目 副作用対策」「5段目 緩和ケア」と
なっている。本書を開く場面はいろいろで
あろうが，特定の薬剤について知りたいの
であれば2段目をあけ，特定のがん種の薬物
療法について知りたいのであれば3段目をあ
け，特定の副作用について知りたいのであ
れば4段目をあけると，得たい情報に行きつ
ける。網羅的に知識を整理したいのであれば，
上から順番に通読するというのもあり
だろう。

「自分で自分の立ち位置決めちまったら
そっから進めなくなるぞ?」というのは，
「アンサング・シンデレラ」で先輩薬剤師か
ら主人公にかけられる言葉だが，薬剤師も
医師も，よりよい医療をめざして，切磋琢
磨していきたいものである。